

第 80 回 コンパス調剤薬局 スキルアップ勉強会

2018.3.20 田中

定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤 アラミストについて

グラクソスミスクライン株式会社 大下様

参加者：華岡先生、作佐部、松本、鈴木、中嶋、佐藤（綾）、木元、遠藤、佐藤(里)、伊藤、田中

アレルギー性鼻炎の治療においては、経口の抗アレルギー薬のほか、鼻噴霧用のステロイド薬が主要な治療薬の一つとなっている。

鼻噴霧用ステロイド薬には、ベクロメタゾンプロピオン酸エステル（商品名：アルデシン AQ ネーザルほか）と、フルチカゾンプロピオン酸エステル（商品名：フルナーゼほか）の2剤が従来から使用されてきたが、これらは、十分な効果を得るために1日2~4回の鼻腔内噴霧が必要となる。これに対し、モメタゾンフランカルボン酸エステル水和物（商品名：ナゾネックス）、フルチカゾンフランカルボン酸エステル（商品名：アラミスト）は、1日1回の鼻腔内噴霧で済むため、患者の利便性が高い。

【効能・効果】

アレルギー性鼻炎

【用法・用量】

成人には、通常1回各鼻腔に2噴霧（1噴霧あたりフルチカゾンフランカルボン酸エステルとして27.5 μ gを含有）を1日1回投与する。小児には、通常1回各鼻腔に1噴霧（1噴霧あたりフルチカゾンフランカルボン酸エステルとして27.5 μ gを含有）を1日1回投与する。

【禁忌】

有効な抗菌剤の存在しない感染症、深在性真菌症の患者、本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【副作用】

通年性アレルギー性鼻炎患者を対象とした臨床試験（2週間投与）において、80例中6例（7.5%）に臨床検査値異常を含む副作用が報告され、その主なものは血中コルチゾール減少2例（2.5%）であった。また、12週間投与した長期試験において、65例中1例（1.5%）に臨床検査値異常を含む副作用として白血球数増加1例（1.5%）が報告された（承認時）。

季節性アレルギー性鼻炎患者を対象とした臨床試験（2週間投与）において、149例中9

例（6.0%）に臨床検査値異常を含む副作用が報告され、その主なものは白血球数増加 2 例（ 1.3% ） で あ っ た （ 承 認 時 ） 。
アレルギー性鼻炎患者を対象とした使用成績調査 1592 例中 9 例（0.6%）に副作用が報告された。その主なものは鼻出血 3 例（0.2%）であった（第 6 回安全性定期報告時）。

【作用機序】

フルチカゾンフランカルボン酸エステルは強力かつ選択的なグルココルチコイド受容体アゴニストであり鼻腔内投与により鼻症状（くしゃみ、鼻搔き行動）を抑制する。

【特徴】

アラミストの有効成分であるフルチカゾンフランカルボン酸エステルはグルココルチコイド受容体に対し最も高い親和性を示すため、効果の面でも優れているが、デバイスも横押し型の「Mist pro」を採用しているため使いやすく、液だれを起こしにくい特徴がある。

【使用上の注意】

新しい噴霧器を使用する際には空噴霧を行い（ 6 回程度）、液が完全に霧状になることを確認した後に使用するよう患者に指導すること。なお、同じ噴霧器を 2 回目以降使用する場合には空噴霧は不要であるが、 5 日以上噴霧器の蓋が 外れていた場合又は 30 日以上噴霧器を使用しなかった場合には空噴霧が必要となる場合がある。

【考察】

アラミスト服薬指導の注意点としてはフルチカゾンフランカルボン酸エステルがゲル状のためよく振って使用する。噴霧口を針で突かないこと。以上 2 点を服薬指導時に伝えることが適正使用に繋がると考えられる。また、効果不十分と患者が感じた場合、1 日 2 回以上の使用は推奨されないため、薬理作用の異なる α -アドレナリン作動性の塩酸テトラヒドロゾリンなどを頓用で使用するのが有効と考えられる。以上